

上秋津区域の治山対策に関する技術検討会
(第2回)

資料-1：
検討内容及び
第1回検討会の指摘事項とその対応

令和2年1月21日
近畿中国森林管理局

第2回検討会 検討内容

<<資料-1：検討内容及び第1回検討会の指摘事項とその対応>>

<<資料-2：地盤特性の検討>>

1. すべり面の断面形状及びボーリングコア
2. 集水井内部のすべり面粘土の土質試験

<<資料-3：移動特性の検討>>

3. GPS 及び干渉 SAR による移動状況
4. 観測機器による移動状況

<<資料-4：対策方針（案）>>

5. 対策の基本方針
6. 対策工計画（案）

第1回検討会の指摘事項等

令和元年10月29日に開催した第1回検討会における有識者の指摘事項について表1に集約する。

表1 第1回検討会の指摘事項

区分	指摘内容	対応状況
第1回検討会	<p>観測・調査について</p> <p>引き続き伸縮計等を用いて地盤の動きを計測する調査を継続し、本体ブロックと末端ブロックの連動性を整理し、今後の地すべり活動と末端部の拡大崩壊の推定につなげてもらいたい。</p> <p>地すべりの絶対的な変位量を把握できる観測方法としてGPS等を活用できないか。</p> <p>Aブロック上部ではボーリング調査結果等から地下水位が不連続な部分が見られるため、さらに詳細な調査も実施してはどうか。</p>	<p>資料-3「4.観測機器による移動状況」に、観測機器等配置及び観測機器の計測結果を整理し、地盤やブロックの移動傾向を考察。</p> <p>資料-3「3.GPS及び干渉SARによる移動状況」に、過去実施したGPSと干渉SARの計測結果をとりまとめ、今後、観測可能箇所を検討した。</p> <p>上記の整理・検討結果から、ブロック等の活動の把握に必要な調査を提案。</p>
	<p>対策について</p> <p>各対策工について、どのブロックのどのような現象に効果を発揮するのかを明確にして、各ブロックの今後の動きの経過等を踏まえつつ、各対策工の優先度合等を検討していくことが重要である。</p>	<p>資料-4「5.対策の基本方針」「6.対策工計画(案)」に、ブロック毎の目標とする安全率や対策手順案を検討した。</p>